

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年11月7日

氏名 (フリガナ)	金指 いずみ (カナザシ イズミ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2016年10月9日(日)～ 10月15日(土)
所属機関名	市立島田市民病院
身分	看護師

以前よりアメリカとの医療の違いについて興味を持ち、アメリカ短期看護研修に参加したいと思っていました。今年こそは思い、研修に参加しました。

1つめはアメリカと日本との看護の違いを知る事が出来ました。受け持ち人数はアメリカでは、人数が少ない面、患者へかけられる時間が多く、(早期)退院に向けて時間をかけて指導が出来る事がわかりました。他にもアメリカでは自分から異動をしたいと思わなければ、異動がない事、ずっと同じ病棟に居る事にとっても驚きました。日本では異動があるためジェネラリスト、アメリカではスペシャリストなのだを知る事がわかりました。また保険制度・医療費などアメリカのヘルスケアシステムについても知る事が出来、アメリカや日本の良い点を知る事が出来ました。

2つめは、学生教育について素晴らしいと思いました。看護教育コーディネーターの役割ではポートランドの大学(患者ロボットシミュレーションセンター)を見学しました。実習室に成人・小児・乳児など領域別の人形(患者ロボット)が置いてあり、隣の部屋では教員が監視カメラを見て、学生の行動を見て、教員はマイクで患者の声(症状)をし、血圧・脈・モニター心電図の波形・瞳孔・肺音・腸音など変化させる事が出来る環境で、学生がどのようにアセスメントをし、行動をしたのか、またその後グループワークで良かった点・悪かった点を出し合い、フィードバックを行う実習をしていました。私はその行っている実習をみて、看護師3年目ぐらいのアセスメント能力・行動があると思いました。またシミュレーション実習がある事で、学生のうちから状態変化(急変)に対するアセスメントし、対応(行動)する事は大切であり、また現場に出ても落ち着いて対応が出来ると思いました。私はプリセプター(新人指導)をしていますが、新人は初めて状態変化(急変)した患者を見て、動揺してしまい、うまく対応が出来なかった事に対し、自信をなくす事が多いと思います。学生のうちからアセスメント能力をつけ、対応できる事で自信につながり、また離職率を防ぐ事が出来ると思います。また、フィードバックする事も改めて大切であると思ったため、日々の新人指導に行っていきたいです。

3つめは、アメリカの看護師は修士号、博士号を取る人がほとんどであり、向上心が高く、責任を持って、プライドを持って仕事をしている事がわかりました。今の私は知識・技術が未熟であり、何に対しても不十分な事ばかりです。就職をして8年目となるが、毎日の仕事で精一杯であり、目標のない日々を送っている状態です。この研修に参加し、アメリカで働いている看護師の仕事に対する意欲を見て、私も負けないように、自分の知識・技術などの向上のために日々の勉強・研修に参加するなど行っていき、また目標を探しながら仕事をしていきたいと思いました。

最初は1人での参加はとても不安で一杯でした。参加者はいろんな病院から研修に年齢や職種も様々でしたが、気さくで話やすく友達が作れて、仕事(病院)の話が聞けるなど、とても楽しく、いろんな勉強になった5泊7日でした。本当に研修に参加して良かったと思います。

最後にこの研修に関わった全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。